

有効成分ジメスルファゼットを含有する申請農薬の使用方法及び
薬効・薬害試験結果概要

1. 対象作物への薬効・薬害

(1) 銀河α 1キロ粒剤（ジメスルファゼット 1.5%・ピラクロニル 2.0%・メタゾスルフロ ン 1.0%粒剤）

① 使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ジメスルファゼットを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	メタゾスルフロ ンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ コウキヤガラ	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布 機で施用	2 回以内	2 回以内	2 回以内
		移植直後～ ルビエ3葉期 ただし、 移植後30日 まで			湛水散布又は 無人航空機に よる散布			
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ルビエ3葉期 ただし、 収穫90日前 まで						

② 薬効

試験の結果、一年生雑草及び多年生雑草に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表1：銀河α 1キロ粒剤の薬効・薬害試験（移植水稻、直は水稻）結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (kg)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	北海道 R2	ルビエ	発生前～3.0葉期	移植当日 (稲3葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	移植当日(稲3葉期) で小程度の草丈・分 げつ抑制がみられ た。移植13日後(稲 4.5葉期)でも草丈・ 分げつ抑制がみられ たが、軽微で回復し た。
		ウリカ	発生前～1葉期	移植13日後 (稲4.5葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.5葉期	移植16日後 (稲5.2葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (kg)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	宮城 R2	ハビエ	発生前～3葉期	移植当日 (稲3葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期も葉鞘褐変がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～1.5葉期	移植16日後 (稲4.3葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～5cm	移植19日後 (稲4.6葉期)				
		ホタルイ	発生前～3葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稻	岩手 R2	ハビエ	発生前～3葉期	移植当日 (稲3.4葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植当日(稲2.2葉期)処理で分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ミスガヤツリ	発生前～4cm	移植16日後 (稲6葉期)				
		ホタルイ	発生前～3葉期	移植18日後 (稲6.4葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～再生始					
移植水稻	山形 R2	ハビエ	発生前～3葉期	移植当日 (稲2.9葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植当日(稲2.9葉期)処理で茎数抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ミスガヤツリ	3cm～18cm	移植10日後 (稲3.7葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.4葉期					
		クログワイ	発生前～3cm	移植13日後 (稲4.0葉期)				
移植水稻	新潟 R2	ハビエ	発生前～3葉期	移植当日 (稲2.8葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも葉鞘褐変、分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～1葉期	移植8日後 (稲3.8葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～2cm	移植10日後 (稲4.1葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.8葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生始期					
移植水稻	茨城 R2	ハビエ	発生前～3.0葉期	移植当日 (稲2.0葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも葉鞘褐変、生育抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～2葉期	移植12日後 (稲4.0葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～7cm	移植14日後 (稲4.3葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.5葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稻	岡山 R2	ハビエ	発生前～3.0葉期	移植当日 (稲2.1葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植当日(稲2.1葉期)処理で草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～2.5葉期	移植9日後 (稲3.5葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～13cm	移植11日後 (稲4.0葉期)				
		ホタルイ	発生前～3.2葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生期					

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果			
		対象雑草		使用時期	使用量 (kg)	使用方法	薬効	薬害	
		名称	生育ステージ						
移植水稲	鹿児島 R2	ヒビエ	発生前～3.0 葉期	移植当日 (稲 2.9 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。	
		ウリカワ	発生前～3.5 葉期						
		ミスガヤツリ	発生前～20 cm						移植 10 日後 (稲 4.4 葉期)
		ホタルイ ヒルムシロ	発生前～2.1 葉期 発生前～発生期						移植 14 日後 (稲 4.6 葉期)
移植水稲	茨城 R2	ヒビエ	発生前	移植当日 (稲 2 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	黄化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。	
		ウリカワ	発生前						
		ミスガヤツリ	発生前						
		ホタルイ	発生前						
		ヒルムシロ	発生前						
移植水稲	兵庫 R2	ヒビエ	発生前～1 葉期	移植当日 (稲 2.7 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	
		ウリカワ	発生前						
		ミスガヤツリ	発生前						
		ホタルイ	発生前						
		オモダカ	発生前						
		ヒルムシロ	発生前						
移植水稲	福岡 R2	ヒビエ	発生前	移植当日 (稲 2.2 葉期)	1	田植 同時 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	生育抑制がみられたが、軽微で回復した。	
		ウリカワ	発生前						
		ミスガヤツリ	発生前						
		ホタルイ	発生前						
		ヒルムシロ	発生前						
移植水稲	新潟 R2	オモダカ	発生前～発生期	移植当日 (稲 2.4 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	
				移植 9 日後 (稲 3.6 葉期)					
				移植 11 日後 (稲 4 葉期)					
				移植 13 日後 (稲 4.3 葉期)					
移植水稲	千葉 R2	オモダカ	発生前～ヘラ葉期	移植 5 日後 (稲 2.2 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも細葉化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。	
				移植 20 日後 (稲 4.7 葉期)					
				移植 22 日後 (稲 5.0 葉期)					
				移植 28 日後 (稲 6.0 葉期)					

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (kg)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稲	茨城 R2	クログライ	発生前～10 cm	移植当日 (稲 2.3 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植当日(稲 2.3 葉期)処理で草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
				移植 6 日後 (稲 3.1 葉期)				
				移植 7 日後 (稲 3.4 葉期)				
				移植 9 日後 (稲 3.7 葉期)				
移植水稲	千葉 R2	クログライ	発生前～10 cm	移植当日 (稲 2.1 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも細葉化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
				移植 24 日後 (稲 4.7 葉期)				
				移植 26 日後 (稲 5.0 葉期)				
				移植 29 日後 (稲 5.2 葉期)				
移植水稲	大阪 R2	クログライ	発生前～10 cm	移植当日 (稲 2.0 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
				移植 8 日後 (稲 3.7 葉期)				
				移植 10 日後 (稲 4.0 葉期)				
				移植 12 日後 (稲 4.3 葉期)				
移植水稲	千葉 R2	コウキヤカラ	発生始～10 cm	移植 6 日後 (稲 2.5 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも細葉化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
				移植 12 日後 (稲 3.5 葉期)				
移植水稲	山口 R2	コウキヤカラ	発生始～10 cm	移植 3 日後 (稲 2.8 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
				移植 5 日後 (稲 3.3 葉期)				
直播水稲	千葉 R2	ヒエ	1 葉期～3 葉期	は種 11 日後 (稲 1 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも細葉化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	1 葉期～1.8 葉期					
		ミスガヤツリ	5 cm～15 cm					
		ホタルイ	2 葉期～3 葉期					

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (kg)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
直播水稻	兵庫 R2	ヒビエ	2.2 葉期～3.0 葉期	は種 6 日後 (稲 1 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ウリカ	2 葉期～3 葉期					
		ミスガヤツリ	4 cm～9 cm	は種 9 日後 (稲 2 葉期)				
		ホタルイ	2.5 葉期～3.8 葉期					
		ヒルムシロ	3 葉期～4 葉期					
直播水稻	奈良 R2	ヒビエ	2 葉期～3 葉期	は種 8 日後 (稲 1 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ウリカ	発生前～発生始	は種 9 日後 (稲 1.2 葉期)				
		ミスガヤツリ	発生始～15 cm					
		ホタルイ	1 葉期～2 葉期	は種 11 日後 (稲 1.7 葉期)				
直播水稻	岡山 R2	ヒビエ	1 葉期～3 葉期	は種 49 日後 (稲 7 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも細葉化、草丈・分けつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	発生始～4 葉期					
		ミスガヤツリ	3 cm～17 cm	は種 54 日後 (稲 7.4 葉期)				
		ホタルイ	1 葉期～3.5 葉期	は種 56 日後 (稲 7.8 葉期)				
		ヒルムシロ	発生始～発定期					
直播水稻	福岡 R2	ヒビエ	1 葉期～3 葉期	は種 32 日後 (稲 6.5 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも葉鞘褐変がみられたが、軽微で回復した。
		ホタルイ	1 葉期～2 葉期	は種 35 日後 (稲 7.3 葉期)				
		ウリカ	1 葉期～3 葉期					
		ミスガヤツリ	2 cm～9 cm	は種 36 日後 (稲 7.5 葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発定期					
		セリ	再生始					
直播水稻	広島 R2	ヒビエ	2.5 葉期～3 葉期	は種 11 日後 (稲 1 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも分けつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	2 葉期					
		ミスガヤツリ	6 cm～8 cm	は種 13 日後 (稲 1.6 葉期)				
		ホタルイ	1 葉期～2 葉期					

③ 薬害

表 1 に示した薬効・薬害試験において、移植水稻、直播水稻に対して、実用上問題となる薬害は認められなかった。

以上の結果から、申請作物に対する薬害については問題ないと判断した。

(2) 銀河αジャンボ (ジメスルファゼット 3.75%・ピラクロニル 5.0%・メタゾスルフロ
ン 2.5%粒剤)

① 使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ジメスルファゼットを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ コウキヤガラ	移植後3日 ～ ルビエ3葉期 ただし、 移植後30日 まで	小包装 (パック)10個 (400g)/10a	1回	水田に 小包装 (パック)の まま投げ 入れる	2回 以内	2回 以内	2回 以内
直播水稻	一年生雑草 ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ルビエ3葉期 ただし、 収穫90日前 まで						

② 薬効

試験の結果、一年生雑草及び多年生雑草に対して無処理区と比べて効果が認められた。
た。

表2：銀河αジャンボの薬効・薬害試験（移植水稻、直は水稻）結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (g/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	北海道 R2	ルビエ	発生前～3.0葉期	移植3日後 (稲3.2葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	移植3日後(稲3.2葉 期)で草丈・分けつ抑制 がみられたが、軽微で 回復した。
		ウリカワ	発生前～1葉期	移植13日後 (稲4.5葉期)				
		ヘラオモダカ	発生前～2葉期	移植16日後 (稲5.2葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.5葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稻	宮城 R2	ルビエ	発生前～3葉期	移植3日後 (稲3.2葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時期も 葉鞘・葉身褐変がみら れたが、軽微で回復し た。
		ウリカワ	発生前～1.5葉期	移植16日後 (稲4.3葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～5cm					
		ホタルイ	発生前～3葉期	移植19日後 (稲4.6葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					

作物名	試験場所 実施年度	試験条件					結果	
		対象雑草		使用時期	使用量 (g/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稲	山形 R2	ハビエ	1.1 葉期～3 葉期	移植 3 日後 (稲 3.2 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	移植 3 日後(稲 3.2 葉 期)処理で茎数抑制が みられたが、軽微で回 復した。
		ホタルイ	1.2 葉期～2.4 葉期	移植 10 日後 (稲 3.7 葉期)				
		ミスガヤツリ	5cm～18cm	移植 13 日後 (稲 4 葉期)				
移植水稲	新潟 R2	ハビエ	発生始～3 葉期	移植 3 日後 (稲 3.1 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時期も 葉鞘・葉身褐変、分げ つ抑制がみられたが、 軽微で回復した。
		ミスガヤツリ	発生始～2 cm	移植 8 日後 (3.8 葉期)				
		ウリカワ	発生前～1 葉期					
		ホタルイ	発生始～2.8 葉期	移植 10 日後 (稲 4.1 葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生始					
移植水稲	岡山 R2	ハビエ	発生始～3 葉期	移植 3 日後 (稲 2.2 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	移植 3 日後(稲 2.2 葉 期)処理で草丈・分げつ 抑制、葉鞘褐変がみら れたが、軽微で回復し た。
		ミスガヤツリ	発生前～13 cm	移植 9 日後 (稲 3.5 葉期)				
		ホタルイ	発生始～3.2 葉期					
		ウリカワ	発生前～2.5 葉期	移植 11 日後 (稲 4.0 葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稲	徳島 R2	ハビエ	発生始～3 葉期	移植 3 日後 (稲 2.2 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認められなか った。
		ウリカワ	発生前～2.0 葉期	移植 17 日後 (稲 4.1 葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.0 葉期	移植 19 日後 (稲 4.5 葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生始期					
移植水稲	福岡 R2	ハビエ	発生始～3.0 葉期	移植 3 日後 (稲 3.1 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時期も 草丈・分げつ抑制がみ られたが、軽微で回復 した。
		ウリカワ	発生始～3 葉期	移植 10 日後 (稲 4.5 葉期)				
		ミスガヤツリ	2 cm～20 cm					
		ホタルイ	発生始～3 葉期	移植 11 日後 (稲 4.7 葉期)				
		ヒルムシロ	発生始～発生期					
移植水稲	新潟 R2	ハビエ	発生前～3.5 葉期	移植 3 日後 (稲 2.7 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認められなか った。
		オモダカ	発生前～ヘラ葉期	移植 9 日後 (稲 3.6 葉期)				
		ホタルイ	発生前～3.5 葉期	移植 11 日後 (稲 4.0 葉期)				
				移植 13 日後 (稲 4.3 葉期)				

作物名	試験場所 実施年度	試験条件					結果	
		対象雑草		使用時期	使用量 (g/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稲	千葉 R2	ヒメ モダカ	発生前～3.0 葉期	移植 3 日後 (稲 2.2 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時期で も細葉化、草丈・分げ つ抑制がみられたが、 軽微で回復した。
		ミスガヤツリ	発生前～10 cm	移植 20 日後 (稲 4.7 葉期)				
				移植 22 日後 (稲 5.0 葉期)				
		ホタル ヒルムシロ	発生前～2.1 葉期	移植 28 日後 (稲 6.0 葉期)				
移植水稲	宮城 R2	クログワイ	発生前～10 cm	移植 3 日後 (稲 3.2 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時期で も葉鞘褐変、草丈・分 げつ抑制がみられた が、軽微で回復した。
				移植 16 日後 (稲 4.2 葉期)				
				移植 20 日後 (稲 4.6 葉期)				
				移植 28 日後 (稲 5.8 葉期)				
移植水稲	茨城 R2	クログワイ	発生前～10 cm	移植 3 日後 (稲 2.3 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	移植 3 日後(稲 2.3 葉 期)で草丈・分げつ抑制 がみられたが、軽微で 回復した。
				移植 6 日後 (稲 2.5 葉期)				
				移植 20 日後 (稲 3.4 葉期)				
				移植 9 日後 (稲 3.7 葉期)				
移植水稲	千葉 R2	クログワイ	発生前～10 cm	移植 3 日後 (稲 2.1 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時期で も細葉化、草丈・分げ つ抑制がみられたが、 軽微で回復した。
				移植 24 日後 (稲 4.7 葉期)				
				移植 26 日後 (稲 5.0 葉期)				
				移植 29 日後 (稲 5.2 葉期)				
移植水稲	千葉 R2	コウキヤガラ	発生前～10 cm	移植 6 日後 (稲 2.5 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時期で も細葉化、草丈・分げ つ抑制がみられたが、 軽微で回復した。
				移植 12 日後 (稲 3.5 葉期)				
移植水稲	山口 R2	コウキヤガラ	発生前～10 cm	移植 3 日後 (稲 2.8 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認められなか った。
				移植 5 日後 (稲 3.3 葉期)				

作物名	試験場所 実施年度	試験条件					結果	
		対象雑草		使用時期	使用量 (g/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
直播水稻	福島 R2	ヒビエ	1葉期～3葉期	は種49日後 (稲2.9葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	は種49日後(稲2.9葉期)及びは種54日後(稲3.8葉期)で草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ホタルイ		2葉期～3葉期				
直播水稻	茨城 R2	ヒビエ	発生前～3.0葉期	は種9日後 (稲0.3葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	移植12日後(稲0.5葉期)で中程度の褐変、草丈・分げつ抑制がみられたが、稲1葉期以降は回復した。
		ウリカワ	発生始～1葉期	は種12日後 (稲0.5葉期)				
		ミスガヤツリ	発生始～5葉期	は種17日後 (稲1.0葉期)				
		ホタルイ	発生始～2.5葉期					
		ヒルムシロ	発生始～発生期					
直播水稻	千葉 R2	ヒビエ	1葉期～3葉期	は種10日後 (稲0.8葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時期でも細葉化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	1葉期～1.8葉期	は種11日後 (稲1葉期)				
		ミスガヤツリ	5cm～15cm	は種12日後 (稲1.2葉期)				
		ホタルイ	2葉期～3葉期					
直播水稻	滋賀 R2	ヒビエ	2葉期～3葉期	は種13日後 (稲1葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時期でも葉身黄化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生始～2.1葉期	は種16日後 (稲1.7葉期)				
		ミスガヤツリ	発生始～5cm	は種18日後 (稲2.2葉期)				
		ヒルムシロ	発生始～発生期					
直播水稻	奈良 R2	ヒビエ	2.0葉期～3葉期	は種8日後 (稲1葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認められなかった。
		ウリカワ	発生前～発生始	は種9日後 (稲1.2葉期)				
		ミスガヤツリ	発生始～15cm	は種11日後 (稲1.7葉期)				
		ホタルイ	1葉期～2葉期					
直播水稻	岡山 R2	ヒビエ	1.0葉期～3葉期	は種49日後 (稲7.0葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時期でも草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生始～4葉期	は種54日後 (稲7.4葉期)				
		ミスガヤツリ	3cm～17cm	は種56日後 (稲7.8葉期)				
		ホタルイ	1葉期～3.5葉期					
		ヒルムシロ	発生始～発生期					

③ 薬害

表2に示した薬効・薬害試験において、移植水稻に対しては、実用上問題となる薬害は認められなかった。直播水稻の稲0.5葉期において中程度の褐変、草丈・分けつ抑制がみられたが、稲1葉期以降は回復したため稲1葉期以降の使用時期を守れば薬害は回避できると考えられた。

以上の結果から、申請作物に対する薬害については問題ないと判断した。

(3) 銀河αエア一粒剤 (ジメスルファゼット 3.75%・ピラクロニル 5.0%・メタゾスルフロン 2.5%粒剤)

① 使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ジメスルファゼットを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 マツバ ホタルイ ウリカ ミズガヤツリ ヘラモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ コウキヤカラ	移植後3日～ ルビエ3葉期 ただし、 移植後30日 日まで	400 g/10 a	1回	湛水散布 又は無人 航空機に よる散布	2回 以内	2回 以内	2回 以内
直播水稻	一年生雑草 ホタルイ ウリカ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ルビエ3葉期 ただし、 収穫90日 前まで						

② 薬効

本剤の組成から銀河αジャンボの試験成績で評価可能と判断した。

試験の結果、一年生雑草及び多年生雑草に対して無処理区と比べて効果が認められた(表2参照)。

③ 薬害

本剤の組成から銀河αジャンボの試験成績で評価可能と判断した。

表2に示した薬効・薬害試験において、移植水稻に対して、実用上問題となる薬害は認められなかった。直播水稻の稲0.5葉期において中程度の褐変、草丈・分けつ抑制がみられたが、稲1葉期以降は回復したため稲1葉期以降の使用時期を守れば薬害は回避できると考えられた。

以上の結果から、申請作物に対する薬害については問題ないと判断した。

(4) 銀河αフロアブル (ジメスルファゼット 3.0%・ピラクロニル 4.0%・メタゾスルフロン 2.0%水和剤)

① 使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ジメスルファゼットを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ハラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ	移植後3日～ ビエ3葉期 ただし、 移植後30日 日まで	500 ml/10 a	1回	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	2回以内	2回以内	2回以内
直播水稻	一年生雑草 ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ビエ3葉期 ただし、 収穫90日前 まで						

② 薬効

試験の結果、一年生雑草及び多年生雑草に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表3：銀河αフロアブルの薬効・薬害試験（移植水稻、直播水稻）結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件					結果	
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	北海道 R2	ビエ	発生前～3.0葉期	移植3日後 (稲3.2葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植3日後(稲3.2葉期)で草丈・分けつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～1葉期					
		ハラオモダカ	発生前～2葉期	移植13日後 (稲4.5葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.5葉期	移植16日後 (稲5.2葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稻	宮城 R2	ビエ	発生前～3葉期	移植3日後 (稲3.2葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期も葉鞘褐変がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～1.5葉期	移植16日後 (稲4.3葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～5cm					
		ホタルイ	発生前～3葉期	移植19日後 (稲4.6葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稲	福島 R2	ハビエ	発生前～3葉期	移植3日後 (稲2.3葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植3日後(稲2.3葉期)及び移植7日後(稲2.6葉期)処理で生育抑制、葉身褐変がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～発生始	移植7日後 (稲2.6葉期)				
		ミスガヤツリ	発生始～6cm					
		ホタルイ	発生始～2葉期	移植13日後 (稲2.9葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～再生始					
移植水稲	新潟 R2	ハビエ	発生始～3葉期	移植3日後 (稲3.1葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも葉鞘褐変、分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～1葉期	移植8日後 (稲3.8葉期)				
		ミスガヤツリ	発生始～3cm					
		ホタルイ	発生始～2.8葉期	移植10日後 (稲4.1葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生始					
移植水稲	岡山 R2	ハビエ	発生始～3葉期	移植3日後 (稲2.2葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植3日後(稲2.2葉期)の処理で葉鞘褐変、分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～2.5葉期	移植9日後 (稲3.5葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～13cm					
		ホタルイ	発生始～3.2葉期	移植11日後 (稲4.0葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稲	福岡 R2	ハビエ	発生前～3.0葉期	移植3日後 (稲3.1葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～3葉期	移植10日後 (稲4.5葉期)				
		ミスガヤツリ	2cm～20cm					
		ホタルイ	発生始～3葉期	移植11日後 (稲4.7葉期)				
		ヒルムシロ	発生始～発生期					
移植水稲	千葉 R2	ハビエ	発生前～3.0葉期	移植3日後 (稲2.2葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも細葉化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		オモダカ	発生前～ヘラ葉期	移植20日後 (稲4.7葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～10cm					
		ホタルイ	発生前～2.1葉期	移植22日後 (稲5.0葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生盛期	移植28日後 (稲6.0葉期)				

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稲	千葉 R2	ハビエ	発生前～3.0 葉期	移植 3 日後 (稲 2.1 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも細葉化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～1.5 葉期					
		ミスガヤツリ	発生前～13 cm	移植 24 日後 (稲 4.7 葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.5 葉期	移植 26 日後 (稲 5.0 葉期)				
		クログワイ	発生前～10 cm					
		ヒルムシロ	発生前～発生盛期	移植 29 日後 (稲 5.2 葉期)				
移植水稲	大阪 R2	ハビエ	発生前～4 葉期	移植 3 日後 (葉期不明)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ミスガヤツリ	発生前	移植 8 日後 (稲 3.7 葉期)				
				移植 10 日後 (稲 4 葉期)				
		ホタルイ	発生前	移植 12 日後 (稲 4.3 葉期)				
		クログワイ	発生前～10 cm					
移植水稲	福島 R2	オモダカ	発生前～ヘラ葉期	移植 3 日 (稲 2.9 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植 17 日後(稲 4.2 葉期)までの処理で草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
				移植 13 日後 (稲 4.0 葉期)				
				移植 17 日後 (稲 4.2 葉期)				
				移植 19 日後 (稲 4.8 葉期)				
移植水稲	茨城 R2	クログワイ	発生前～10 cm	移植当日 (稲 2.3 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植当日(稲 2.3 葉期)処理で草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
				移植 3 日後 (稲 2.5 葉期)				
				移植 6 日後 (稲 3.1 葉期)				
				移植 7 日後 (稲 3.4 葉期)				
直播水稲	福島 R2	ハビエ	1 葉期～3 葉期	は種 49 日後 (稲 2.9 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	は種 49 日後(稲 2.9 葉期)で草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
				は種 54 日後 (稲 3.8 葉期)				
		ホタルイ	鞘～2.8 葉期	は種 57 日後 (稲 4.6 葉期)				

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
直播水稻	茨城 R2	ヒビエ	発生前～3.0 葉期	は種 9 日後 (稲 0.3 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	は種 12 日後(稲 0.5 葉期)で中程度の褐変、草丈・分げつ抑制がみられたが、は種 17 日後(稲 1 葉期)では軽微であった。
		ウリカワ	発生始～1 葉期					
		ミスガヤツリ	発生始～5 cm	は種 17 日後 (稲 1 葉期)				
		ホタルイ	発生始～2.5 葉期					
		ヒルムシロ	発生始～発生期					
直播水稻	千葉 R2	ヒビエ	1 葉期～3 葉期	は種 10 日後 (稲 0.8 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも細葉化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	1 葉期～1.8 葉期	は種 11 日後 (稲 1.0 葉期)				
		ミスガヤツリ	5 cm～15 cm					
		ホタルイ	2 葉期～3 葉期	は種 12 日後 (稲 1.2 葉期)				
直播水稻	奈良 R2	ヒビエ	2 葉期～3 葉期	は種 8 日後 (稲 1 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ウリカワ	発生前～発生始					
		ミスガヤツリ	発生始～15 cm	は種 9 日後 (稲 1.2 葉期)				
		ホタルイ	1 葉期～2 葉期	は種 11 日後 (稲 1.7 葉期)				
直播水稻	岡山 R2	ヒビエ	1 葉期～3 葉期	は種 49 日後 (稲 7 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生始～4 葉期					
		ミスガヤツリ	3 cm～17 cm	は種 54 日後 (稲 7.4 葉期)				
		ホタルイ	1 葉期～3.5 葉期					
		ヒルムシロ	発生始～発生期					
直播水稻	山口 R2	ヒビエ	2.8 葉期～3 葉期	は種 11 日後 (稲 0.8 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも葉身褐点、生育抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生始～1.5 葉期					
		ミスガヤツリ	6 cm～12 cm	は種 12 日後 (稲 1.0 葉期)				
		ホタルイ	2 葉期～2.5 葉期					
		ククワイ	10 cm～14 cm					
		ヒルムシロ	発生期	は種 13 日後 (稲 1.2 葉期)				

③ 薬害

表 3 に示した薬効・薬害試験において、移植水稻に対しては、実用上問題となる薬害は認められなかった。直播水稻は、稲 0.5 葉期の処理時期で中程度の褐変、草丈・分げつ抑制が認められているが、稲 1 葉期処理では軽微だったため稲 1 葉期以降の使用時期を守れば薬害は回避可能と考えられた。

以上の結果から、申請作物に対する薬害については問題ないと判断した。

(5) ゼアス1キロ粒剤 (オキサジクロメホン 0.40 %・ジメスルファゼット 1.5 %・ピラクロニル 2.0 %粒剤)

① 使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	オキサジクロメホンを含む農薬の総使用回数	ジメスルファゼットを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラオモダカ ヒルムシロ オモダカ クログワイ コウキヤガラ	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用	2 回以内	2 回以内	2 回以内
		移植直後～ ビエ2.5 葉期 ただし、 移植後 30 日 まで			湛水散布又は無人航空機による散布			
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ	稲 1 葉期～ ビエ2.5 葉期 ただし、 収穫 90 日前 まで						

② 薬効

試験の結果、一年生雑草及び多年生雑草に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 4：ゼアス1キロ粒剤の薬効・薬害試験（移植水稻、直播水稻）結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件					結果	
		対象雑草		使用時期	使用量 (kg/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	北海道 H30	ビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 2.4 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植当日(稲 2.4 葉期)、移植 3 日後(稲 2.4 葉期)及び移植 9 日後(3.1 葉期)で草丈抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	発生前～1.7 葉期	移植 3 日後 (稲 2.4 葉期)				
		ホタルイ	発生前～1.9 葉期	移植 9 日後 (稲 3.1 葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期	移植 11 日後 (稲 3.6 葉期)				

作物名	試験 場所 実施 年度	試験条件				結果			
		対象雑草		使用時期	使用量 (kg/10a)	使用 方法	薬効	薬害	
		名称	生育ステージ						
移植 水稻	北海道 H30	ヒビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 2.9 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められな かった。	
		ウリカ	発生前～1 葉期	移植 11 日後 (稲 3.7 葉期)					
		ホタルイ	発生前～2 葉期	移植 13 日後 (稲 4.0 葉期)					
		ヘラオモダカ	発生前～2.2 葉期						
		ヒルムシロ	発生前～発生始期						
移植 水稻	宮城 H30	ヒビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 3.2 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	いずれの処理時期も 葉鞘褐変がみられた が、軽微で回復し た。	
		ウリカ	発生前～1 葉期	移植 3 日後 (稲 3.4 葉期)					
		ミスガヤツリ	発生前～4 cm	移植 12 日後 (稲 4.2 葉期)					
		ホタルイ	発生前～2.5 葉期						
		ヒルムシロ	発生前～発生期						移植 15 日後 (稲 4.6 葉期)
移植 水稻	福島 H30	ヒビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 3.0 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められな かった。	
		ウリカ	発生前～発生始期	移植 10 日後 (稲 3.5 葉期)					
		ミスガヤツリ	発生前～8 cm						
		ヘラオモダカ	発生前～1.7 葉期						
		ホタルイ	発生前～2.4 葉期						
		ヒルムシロ	発生前～発生期						移植 13 日後 (稲 3.9 葉期)
移植 水稻	静岡 H30	ヒビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 2.2 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	移植当日(稲 2.2 葉期) 処理で分けつ抑制、 葉鞘褐変がみられた が、軽微で回復し た。	
		ウリカ	発生前～2.1 葉期	移植 7 日後 (稲 2.7 葉期)					
		ミスガヤツリ	発生前～6 cm						
		ホタルイ	発生前～1.8 葉期						
		クログワイ	発生前～3 cm						移植 9 日後 (稲 2.9 葉期)
移植 水稻	広島 H30	ヒビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 2.8 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められな かった。	
		ウリカ	発生前～発生始期	移植 6 日後 (稲 3.0 葉期)					
		ミスガヤツリ	発生前～10 cm						
		ホタルイ	発生前～2 葉期						
		ヒルムシロ	発生前～発生期						移植 9 日後 (稲 3.5 葉期)

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (kg/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	福岡 H30	ヒビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 2.3 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ウリカ	発生前～3 葉期	移植 13 日後 (稲 4.5 葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～12 cm					
		ホタルイ	発生前～3 葉期	移植 16 日後 (稲 5.2 葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稻	宮城 H30	ヒビエ	発生前	移植当日 (稲 2.8 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	発生前					
		ミスガヤツリ	発生前					
		ホタルイ	発生前					
		ヒルムシロ	発生前					
移植水稻	新潟 H30	ヒビエ	発生前	移植当日 (稲 2.7 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	生育抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ホタルイ	発生前					
移植水稻	千葉 H30	ヒビエ	発生前	移植当日 (稲 2.1 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ウリカ	発生前					
		ミスガヤツリ	発生前					
		ホタルイ	発生前					
		ヒルムシロ	発生前					
移植水稻	新潟 H30	オモダカ	発生前～へラ葉期	移植 5 日後 (稲 3.1 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
				移植 11 日後 (稲 4.1 葉期)				
				移植 16 日後 (稲 5.0 葉期)				
移植水稻	千葉 H30	オモダカ	発生前～へラ葉期	移植 5 日後 (稲 2.3 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	細葉化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
				移植 21 日後 (稲 4.7 葉期)				
				移植 26 日後 (稲 5.5 葉期)				

作物名	試験場所 実施年度	試験条件					結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (kg/10a)	使用方法	薬効	薬害	
		名称	生育ステージ						
移植水稲	新潟 H30	クログワイ	発生前～10 cm	移植 5 日後 (稲 3.1 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められな かった。	
				移植 11 日後 (稲 4.1 葉期)					
				移植 15 日後 (稲 5.0 葉期)					
移植水稲	千葉 H30	クログワイ	発生前～10 cm	移植 8 日後 (稲 2.5 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	いずれの処理時期で も細葉化、草丈・分 げつ抑制がみられ たが、軽微で回復し た。	
				移植 26 日後 (稲 5.5 葉期)					
				移植 29 日後 (稲 6.0 葉期)					
移植水稲	高知 H30	コウキヤガラ	発生始～10 cm	移植 3 日後 (稲 2.3 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	いずれの処理時期で も葉身細化、草丈・ 分げつ抑制がみられ たが、収量には影響 がなかった。	
				移植 7 日後 (稲 2.8 葉期)					
移植水稲	鹿児島 H30	コウキヤガラ	発生始～10 cm	移植 7 日後 (稲 2.4 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	いずれの処理時期で も葉鞘褐変がみられ たが、軽微であっ た。	
				移植 14 日後 (稲 3.0 葉期)					
直播水稲	岡山 H30	ヒビエ	発生前～2.5 葉期	は種 29 日後 (稲 5 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められな かった。	
		ウリカ	発生前～2 葉期						
		ミズガヤツリ	3 cm～7 cm						は種 32 日後 (稲 5.6 葉期)
		ホタルイ	1 葉期～3 葉期						は種 35 日後 (稲 6.2 葉期)
		ヒルムシロ	発生始						
直播水稲	山口 H30	ヒビエ	発生前～2.5 葉期	は種 15 日後 (稲 1 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	転苗、分げつ抑制が みられたが、早期に 回復した。	
		ウリカ	発生前～2 葉期						
		ミズガヤツリ	3 cm～7 cm						は種 17 日後 (稲 1.5 葉期)
		ホタルイ	発生前～2 葉期						は種 19 日後 (稲 2 葉期)
		ヒルムシロ	発生期						

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (kg/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
直播水稻	福島 H30	ヒビエ	1.6 葉期～2.5 葉期	は種 49 日後 (稲 2.9 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
				は種 51 日後 (稲 3.2 葉期)				
		ホタルイ	発生前～2 葉期	は種 54 日後 (稲 3.8 葉期)				
直播水稻	茨城 H30	ヒビエ	発生前～2.5 葉期	は種 7 日後 (稲不完全葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	稲不完全葉期及び 0.3 葉期で大程度の苗立ち抑制がみられた。稲 1 葉期処理では褐変、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生始～1 葉期	は種 9 日後 (稲 0.3 葉期)				
		ミスガヤツリ	発生始～3 cm	は種 17 日後 (稲 1 葉期)				
		ホタルイ	発生始～2 葉期					
		ヒルムシロ	発生始					
直播水稻	兵庫 H30	ヒビエ	2.2 葉期～2.5 葉期	は種 6 日後 (稲 1 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ウリカワ	2 葉期～3 葉期					
		ミスガヤツリ	4 cm～5 cm	は種 7 日後 (稲 1.3 葉期)				
		ホタルイ	2.5 葉期～3 葉期					
		ヒルムシロ	3 葉期					
直播水稻	奈良 H30	ヒビエ	2 葉期～2.5 葉期	は種 8 日後 (稲 1 葉期)	1	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ウリカワ	発生前～発生始					
		ミスガヤツリ	発生始～5 cm	は種 9 日後 (稲 1.2 葉期)				
		ホタルイ	1 葉期					

③ 薬害

表 4 示した薬効・薬害試験において、移植水稻に対しては、実用上問題となる薬害は認められなかった。直播水稻は、稲不完全葉期～0.3 葉期の処理時期で大程度の苗立ち抑制が認められているが、稲 1 葉期処理では軽微だったため稲 1 葉期以降の使用時期を守れば薬害は回避可能と考えられた。

以上の結果から、申請作物に対する薬害については問題ないと判断した。

(6) ゼアスジャンボ (オキサジクロメホン 1.3 %・ジメスルファゼット 5.0 %・ピラクロニル 6.6 %粒剤)

① 使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	オキサジクロメホンを含む農薬の総使用回数	ジメスルファゼットを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラオモダカ ヒルムシロ オモダカ クロクワイ コウキカガラ	移植直後～ ルビエ 2.5 葉期 ただし、 移植後 30 日 まで	小包装(パック) 10 個(300 g)/ 10 a	1 回	水田に 小包装 (パック) のまま投げ 入れる	2 回 以内	2 回 以内	2 回 以内
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ	稲 1 葉期～ ルビエ 2.5 葉期 ただし、 収穫 90 日前 まで						

② 薬効

試験の結果、一年生雑草及び多年生雑草に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 5：ゼアスジャンボの薬効・薬害試験（移植水稻、直播水稻）結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (g/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	北海道 R 元	ルビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 3.3 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植当日(稲 3.3 葉期)処理で草丈・茎数抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	発生前～1 葉期					
		ホタルイ	発生前～2 葉期	移植 9 日後 (稲 4.1 葉期)				
		ハラオモダカ	発生前～1.7 葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生期	移植 12 日後 (稲 4.5 葉期)				
移植水稻	山形 R 元	ルビエ	1.5 葉期～2.5 葉期	移植当日 (稲 3.3 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ホタルイ	発生前～2.2 葉期	移植 2 日後 (稲 3.5 葉期)				
		ミスガヤツリ	8 cm～12 cm	移植 6 日後 (稲 3.9 葉期)				

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (g/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	新潟 R元	ノビエ	発生前～2.5葉期	移植当日 (稲 2.7葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	全ての処理時期で葉鞘褐変、分けつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	発生前～1葉期	移植3日後 (稲 3.0葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.5葉期					
		ミスガヤツリ	発生前～5cm	移植7日後 (稲 3.5葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期	移植9日後 (稲 3.8葉期)				
移植水稻	千葉 R元	ノビエ	発生前～2.5葉期	移植当日 (稲 2.6葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植後15日(稲 3.9葉期)、移植18日後(稲 4.5葉期)処理で葉鞘褐変、分けつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	発生前～発生始	移植3日後 (稲 2.7葉期)				
		ホタルイ	発生前～2葉期					
		ミスガヤツリ	発生前～5cm	移植12日後 (稲 3.7葉期)				
				移植15日後 (稲 3.9葉期)				
移植18日後 (稲 4.5葉期)								
移植水稻	福岡 R2	ノビエ	発生前～2.5葉期	移植当日 (稲 2.2葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植13日(稲 3.0葉期)及び15日後(稲 3.3葉期)処理で生育抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	発生前～2葉期	移植13日後 (稲 3.0葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.5葉期					
		ミスガヤツリ	発生前～13cm					
		ヒルムシロ	発生前～発生期	移植15日後 (稲 3.3葉期)				
移植水稻	鹿児島 R2	ノビエ	発生前～2.5葉期	移植当日 (稲 3葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ウリカ	発生前～3葉期	移植8日後 (稲 4.3葉期)				
		ホタルイ	発生前～2葉期					
		ミスガヤツリ	発生前～13cm					
		ヒルムシロ	発生前～発生期	移植10日後 (稲 4.8葉期)				
移植水稻	新潟 R2	オモダカ	発生前～ヘラ葉期	移植5日後 (稲 3.0葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
				移植9日後 (稲 3.6葉期)				
				移植13日後 (稲 4.3葉期)				
移植水稻	千葉 R2	オモダカ	発生前～ヘラ葉期	移植5日後 (稲 2.3葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
				移植22日後 (稲 5.0葉期)				
				移植28日後 (稲 6.0葉期)				

作物名	試験場所 実施年度	試験条件					結果	
		対象雑草		使用時期	使用量 (g/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植 水稲	新潟 R2	クログライ	発生始～10 cm	移植 10 日後 (稲 3.8 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められな かった。
				移植 14 日後 (稲 4.7 葉期)				
移植 水稲	千葉 R2	クログライ	発生始～10 cm	移植 25 日後 (稲 4.9 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	全ての処理時期で細 薬化、草丈・分げつ抑 制がみられたが、軽 微で回復した。
				移植 29 日後 (稲 5.2 葉期)				
移植 水稲	山口 R2	コウキカガラ	発生始～10 cm	移植 3 日後 (稲 2.8 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められな かった。
				移植 5 日後 (稲 3.3 葉期)				
移植 水稲	熊本 R2	コウキカガラ	発生始～10 cm	移植 8 日後 (稲 5.6 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められな かった。
				移植 15 日後 (稲 6.8 葉期)				
直播 水稲	青森 R元	ヒビエ	発生前～2.5 葉期	は種 6 日後 (稲出芽盛期)	300	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	出芽盛期では苗立ち が強く抑制され減収 となった。は種 13 日 後(稲 1 葉期)及びは 種 20 日後(2 葉期)で 転び苗がみられた が、軽微で回復した。
		ホタルイ	発生前～2.1 葉期	は種 7 日後 (稲出芽盛期)				
		ミスガヤツリ	発生前～8 cm	は種 13 日後 (稲 1 葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生始期	は種 20 日後 (稲 2 葉期)				
直播 水稲	岡山 R元	ヒビエ	0.8 葉期～2.5 葉期	は種 29 日後 (稲 5 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められな かった。
		ホタルイ	1 葉期～3 葉期	は種 32 日後 (稲 5.6 葉期)				
		ウリカワ	発生始～2 葉期					
		ミスガヤツリ	3 cm～7 cm	は種 35 日後 (稲 6.2 葉期)				
		ヒルムシロ	発生始期					
直播 水稲	山口 R元	ヒビエ	2 葉期～2.5 葉期	は種 15 日後 (稲 1 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	は種 15 日後(稲 1 葉 期)処理で中程度の 苗立ち抑制、草丈・分 げつ抑制が認められ た。
		ホタルイ	発生前～2 葉期	は種 17 日後 (稲 1.5 葉期)				
		ウリカワ	発生前～2 葉期					
		ミスガヤツリ	3 cm～7 cm	は種 19 日後 (稲 2 葉期)				
		ヒルムシロ	発生期					

作物名	試験場所 実施年度	試験条件					結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (g/10a)	使用方法	薬効	薬害	
		名称	生育ステージ						
直播水稻	茨城 R元	ノビエ	発生前～2.5 葉期	は種 7 日後 (稲不完全葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	は種 7 日後(稲不完全葉期)及びは種 9 日後(0.3 葉期)処理で大程度の苗立ち抑制が認められた。は種 17 日後(稲 1 葉期)処理では褐変、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。	
		ホタルイ	発生始～2 葉期	は種 9 日後 (稲 0.3 葉期)					
		ウリカ	発生前～1 葉期						
		ミスガヤツリ	発生始～3 cm	は種 17 日後 (稲 1 葉期)					
		ヒルムシロ	発生始						
直播水稻	奈良 R元	ノビエ	2.0 葉期～2.5 葉期	は種 8 日後 (稲 1 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	
		ホタルイ	1 葉期						
		ウリカ	発生前～発生始						
		ミスガヤツリ	発生始～5 cm						は種 9 日後 (稲 1.2 葉期)
直播水稻	宮崎 R元	ノビエ	1.0 葉期～2.5 葉期	は種 34 日後 (稲 4.6 葉期)	300	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。	
		ホタルイ	発生始～1.5 葉期						
		ウリカ	1 葉期～3 葉期						は種 38 日後 (稲 5.2 葉期)
		ミスガヤツリ	発生始～12 cm						は種 41 日後 (稲 5.6 葉期)

② 薬害

表 5 に示した薬効・薬害試験において、移植水稻に対して、実用上問題となる薬害は認められなかった。直播水稻の稲不完全葉期及び 0.3 葉期処理で苗立が強く抑制されたが、稲 1 葉期処理では軽微だったため、稲 1 葉期以降の使用時期を守れば薬害は回避できると考えられた。また、稲 1 葉期処理において、中程度の苗立、草丈、分げつ抑制がみられたが、出芽が不揃いであった影響と考えられた。

以上の結果から、申請作物に対する薬害については問題ないと判断した。

(7) ゼアスエアー粒剤 (オキサジクロメホン 1.3 %・ジメスルファゼット 5.0 %・ピラクロニル 6.6 %粒剤)

① 使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	オキサジクロメホンを含む農薬の総使用回数	ジメスルファゼットを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツ ハラモダカ ヒルムシ オモダカ クログワイ コウキヤガラ	移植直後～ ルビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日 まで	300 g/10 a	1回	湛水散布 又は無人 航空機に よる散布	2回 以内	2回 以内	2回 以内
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツ ヒルムシ	稲1葉期～ ルビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前 まで						

② 薬効

本剤の組成からゼアスジャンボの試験成績で評価可能と判断した。

試験の結果、一年生雑草及び多年生雑草に対して無処理区と比べて効果が認められた(表5参照)。

③ 薬害

本剤の組成からゼアスジャンボの試験成績で評価可能と判断した。

表5に示した薬効・薬害試験において、移植水稲に対して、実用上問題となる薬害は認められなかった。直播水稲の稲不完全葉期及び0.3葉期処理で苗立が強く抑制されたが、稲1葉期処理では軽微だったため、稲1葉期以降の使用時期を守れば薬害は回避できると考えられた。また、稲1葉期処理において、中程度の苗立、草丈、分けつ抑制がみられたが、出芽が不揃いであった影響と考えられた。

以上の結果から、申請作物に対する薬害については問題ないと判断した。

(8) ゼアスフロアブル (オキサジクロメホン 0.80 %・ジメスルファゼット 3.0 %・ピラクロニル 4.0 %粒剤)

① 使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	オキサジクロメホンを含む農薬の総使用回数	ジメスルファゼットを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ オモダカ クログワイ ウキカガラ	移植時	500 ml/10 a	1回	田植同時 散布機で 施用	2回 以内	2回 以内	2回 以内
		移植直後～ ヒュエ2.5葉期 ただし、 移植後30日 まで			原液湛水 散布又は 無人航空 機による 滴下			
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ	稲1葉期～ ヒュエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前 まで						

② 薬効

試験の結果、一年生雑草及び多年生雑草に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表6：ゼアスフロアブルの薬効・薬害試験（移植水稻、直播水稻）結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	北海道 H30	ヒュエ	発生前～2.5葉期	移植当日 (稲2.4葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	いずれの処理時 期も草丈抑制が みられたが、軽微 で回復した。
		ウリカ	発生前～1.7葉期	移植3日後 (稲2.4葉期)				
		ホタルイ	発生前～1.9葉期	移植9日後 (稲3.1葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期	移植11日後 (稲3.6葉期)				
移植水稻	北海道 H30	ヒュエ	発生前～2.5葉期	移植当日 (稲2.9葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
		ウリカ	発生前～1葉期	移植11日後 (稲3.7葉期)				
		ホタルイ	発生前～2葉期	移植13日後 (稲4.0葉期)				
		ヘラオモダカ	発生前～2.2葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生初期					

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	宮城 H30	ノビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 3.2 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時 期も葉鞘褐変が みられたが、軽微 で回復した。
		ウリカ	発生前～1 葉期	移植 3 日後 (稲 3.4 葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～4 cm	移植 12 日後 (稲 4.2 葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.5 葉期	移植 15 日後 (稲 4.6 葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稻	秋田 H30	ノビエ	0.5 葉期～2.5 葉期	移植当日 (稲 3.0 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認められ なかった。
		ウリカ	発生前～1 葉期	移植 5 日後 (稲 3.3 葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～1.5 cm	移植 6 日後 (稲 3.5 葉期)				
		ホタルイ	0.5 葉期～2.6 葉期	移植 8 日後 (稲 3.9 葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稻	千葉 H30	ノビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 2.6 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時 期も草丈・分げつ 抑制、葉鞘褐変が みられたが、軽微 で回復した。
		ウリカ	発生前～発生始期	移植 12 日後 (稲 3.7 葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～5 cm	移植 15 日後 (稲 3.9 葉期)				
		ホタルイ	発生前～2 葉期					
移植水稻	静岡 H30	ノビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 2.2 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	移植当日処理で 分げつ抑制がみ られたが、軽微で 回復した。
		ウリカ	発生前～2.1 葉期	移植 7 日後 (稲 2.7 葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～6 cm	移植 9 日後 (稲 2.9 葉期)				
		ホタルイ	発生前～1.8 葉期					
		ヒルムシロ	発生前～3 cm					
移植水稻	福岡 H30	ノビエ	発生前～2.5 葉期	移植当日 (稲 2.3 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認められ なかった。
		ウリカ	発生前～3 葉期	移植 13 日後 (稲 4.5 葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～12 cm					
		ホタルイ	発生前～3 葉期	移植 16 日後 (稲 5.2 葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稻	茨城 H30	ノビエ	発生前	移植当日 (稲 2 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	草丈・分げつ抑制 がみられたが、軽 微で回復した。
		ウリカ	発生前					
		ミスガヤツリ	発生前					
		ホタルイ	発生前					

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稲	千葉 H30	ヒビエ	発生前	移植当日 (稲 2.7 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	葉鞘褐変、草丈・ 分けつ抑制がみ られたが、軽微で 回復した。
		ウリカ	発生前					
		ミスガヤツリ	発生前					
		ホタルイ	発生前					
		ヒルムシロ	発生前					
移植水稲	福岡 H30	ヒビエ	発生前	移植当日 (稲 2.2 葉期)	500	田植 同時 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	葉先枯、生育抑制 がみられたが、軽 微で回復した。
		ウリカ	発生前					
		ミスガヤツリ	発生前					
		ホタルイ	発生前					
		ヒルムシロ	発生前					
移植水稲	新潟 H30	オモダカ	発生前～ヘラ葉期	移植 5 日後 (稲 3.1 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認められ なかった。
				移植 11 日後 (稲 4.1 葉期)				
				移植 16 日後 (稲 5.0 葉期)				
移植水稲	千葉 H30	オモダカ	発生前～ヘラ葉期	移植 5 日後 (稲 2.3 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	細葉化、草丈・分 けつ抑制がみら れたが、軽微で回 復した。
				移植 21 日後 (稲 4.7 葉期)				
				移植 26 日後 (稲 5.5 葉期)				
移植水稲	新潟 H30	クログワイ	発生前～10 cm	移植 5 日後 (稲 3.1 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認められ なかった。
				移植 11 日後 (稲 4.1 葉期)				
				移植 15 日後 (稲 5.0 葉期)				
移植水稲	茨城 H30	クログワイ	発生前～10 cm	移植 3 日後 (稲 2.6 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時 期でも葉鞘褐変 がみられたが、軽 微で回復した。
				移植 9 日後 (稲 3.6 葉期)				
				移植 17 日後 (稲 5.0 葉期)				
移植水稲	山口 H30	コウキカヲ	発生始～10 cm	移植 4 日後 (稲 2.8 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認められ なかった。
				移植 6 日後 (稲 3.0 葉期)				
移植水稲	鹿児島 H31	コウキカヲ	発生始～10 cm	移植 7 日後 (稲 2.4 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時 期でも葉鞘褐変 がみられたが、軽 微であった。
				移植 14 日後 (稲 3.0 葉期)				

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
直播水稲	北海道 R元	ノビエ	発生前～2.5葉期	は種12日後 (稲不完全葉期)	500	湛水 散布	ヒルムシロを除き、無 処理区と比較し て十分な効果が 認められた。	いずれの処理時 期でも生育抑制 がみられたが、軽 微であった。
		ウリカ	発生前～発生始期	は種16日後 (稲1葉期)				
		ホタルイ	発生前～1.5葉期	は種20日後 (稲2葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生始					
直播水稲	宮崎 R元	ノビエ	発生前～2.5葉期	は種33日後 (稲4.9葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認められ なかった。
		ウリカ	発生始期～3.1葉期	は種39日後 (稲5.7葉期)				
		ミスガヤツリ	発生始期～11cm	は種43日後 (稲6.3葉期)				
		ホタルイ	発生前～2.7葉期					
直播水稲	秋田 R2	ノビエ	発生前～2.5葉期	は種14日後 (稲1葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	は種14日後(稲1 葉期)、は種16日 後(稲1.5葉期) 処理で草丈・分げ つ抑制がみられ たが、軽微であ った。
		ウリカ	1葉期～2葉期	は種16日後 (稲1.5葉期)				
		ミスガヤツリ	発生始～6cm					
		ホタルイ	発生前～1.5葉期	は種18日後 (稲2葉期)				
直播水稲	奈良 R2	ノビエ	2葉期～2.5葉期	は種8日後 (稲1葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認められ なかった。
		ウリカ	発生前～1葉期	は種9日後 (稲1.2葉期)				
		ミスガヤツリ	発生始～15cm	は種12日後 (稲2葉期)				
		ホタルイ	1葉期～2葉期					
直播水稲	岡山 R2	ノビエ	1葉期～2.5葉期	は種49日後 (稲7葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時 期でも分げつ抑 制がみられたが、 軽微であった。
		ウリカ	発生始～3葉期	は種54日後 (稲7.4葉期)				
		ミスガヤツリ	3cm～15cm					
		ホタルイ	1葉期～2葉期					
直播水稲	福岡 R2	ノビエ	1葉期～2.5葉期	は種32日後 (稲6.5葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	いずれの処理時 期でも葉鞘褐変 がみられたが、 軽微であった。
		ウリカ	1葉期～3葉期	は種35日後 (稲7.3葉期)				
		ミスガヤツリ	2cm～8cm					
		ホタルイ	1葉期～2葉期					
直播水稲	福岡 R2	ヒルムシロ	発生前～発生期					

③ 薬害

表6に示した薬効・薬害試験において、移植水稲及び直播水稲に対して、実用上問題となる薬害は認められなかった。

以上の結果から、申請作物に対する薬害については問題ないと判断した。

(9) センメツ Z フロアブル (ジメスルファゼット 2.9%・ピラクロニル 3.8%・プロピリスル
スルフロン 1.7%水和剤)

① 使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ジメスルファゼットを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログライ コウキヤガラ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 3 日～ ルビエ 4 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	500 ml/10 a	1 回	原液湛水 散布、水 口施用又 は無人航 空機によ る滴下	2 回 以内	2 回 以内	2 回 以内
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲 1 葉期～ ルビエ 3.5 葉期 ただし、 収穫 90 日前まで						

② 薬効

試験の結果、一年生雑草及び多年生雑草に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 7 : センメツ Z フロアブルの薬効・薬害試験 (移植水稻、直播水稻) 結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	北海道 R2	ルビエ	発生始～4.0 葉期	移植 3 日後 (稲 2.4 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植 3 日後(稲 2.4 葉期)で葉鞘褐変がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	発生前～2.5 葉期	移植 16 日後 (稲 4.6 葉期)				
		ホタルイ	発生前～3.4 葉期	移植 19 日後 (稲 5.1 葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					

作物名	試験場所 実施年度	試験条件					結果	
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	新潟 R2	ハビエ	発生始～4葉期	移植3日後 (稲3.1葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期も葉鞘、葉身褐変、分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～3.5葉期	移植12日後 (稲4.4葉期)				
		ミスガヤツリ	発生始～9cm	移植15日後 (稲4.6葉期)				
		ホタルイ	発生始～4葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稻	茨城 R2	ハビエ	発生始～4葉期	移植3日後 (稲2.3葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期も葉鞘褐変、生育抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生始～3.5葉期	移植17日後 (稲5.0葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～14cm					
		ホタルイ	発生始～4.0葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生期	移植19日後 (稲5.3葉期)				
移植水稻	千葉 R2	ハビエ	発生前～4葉期	移植3日後 (稲2.6葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも葉鞘褐変、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～3.5葉期	移植21日後 (稲5.1葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～17cm					
		ホタルイ	発生前～4葉期	移植24日後 (稲5.5葉期)				
移植水稻	岡山 R2	ハビエ	発生始～3葉期	移植3日後 (稲2葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植3日後(稲2葉期)の処理で草丈・分げつ抑制、退色がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～2.8葉期	移植13日後 (稲4.4葉期)				
		ミスガヤツリ	発生前～25cm					
		ホタルイ	発生前～4.3葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生盛期	移植15日後 (稲4.7葉期)				
移植水稻	福岡 R2	ハビエ	発生始～4.0葉期	移植3日後 (稲3.1葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも草丈抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生始～4葉期	移植13日後 (稲5.1葉期)				
		ミスガヤツリ	2cm～25cm					
		ホタルイ	発生始～4葉期					
		ヒルムシロ	発生始～発生盛期	移植15日後 (稲5.5葉期)				

作物名	試験場所 実施年度	試験条件					結果	
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植水稻	岩手 R2	ヒビエ	1葉期～3.5葉期	移植3日後 (稲3.2葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも葉鞘褐変、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ミスガヤツリ	発生前～13cm					
		ホタルイ	発生始～2.8葉期	移植17日後 (稲5.0葉期)				
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稻	福島 R2	ヒビエ	発生始～3.5葉期	移植3日後 (稲2.9葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植17日後(稲4.2葉期)以降の処理で草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～1葉期					
		ミスガヤツリ	発生前～14cm	移植17日後 (稲4.2葉期)				
		ホタルイ	発生始～3葉期	移植20日後 (稲5.0葉期)				
		ハラオモタカ	発生始～4葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
移植水稻	新潟 R2	ヒビエ	発生前	移植5日後 (稲2.6葉期)	500	水口 処理	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	葉鞘褐変、畦畔際の生育抑制がみられたが、軽微で回復した。
ホタルイ	発生前							
移植水稻	茨城 R2	ヒビエ	発生前	移植14日後 (稲4.3葉期)	500	水口 処理	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	葉鞘褐変がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	2葉期					
		ミスガヤツリ	5cm					
		ホタルイ	2葉期					
移植水稻	福井 R2	ヒビエ	発生前～3.5葉期	移植3日後 (稲2.4葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植20日後(稲4.8葉期)の処理で分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～2葉期					
		ミスガヤツリ	発生始～11cm	移植20日後 (稲4.8葉期)				
		ホタルイ	発生前～4葉期					
移植水稻	宮城 R2	クログワイ	発生前～3cm	移植3日後 (稲3.2葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも葉鞘褐変、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
				移植20日後 (稲4.6葉期)				
				移植23日後 (稲5.0葉期)				
移植水稻	茨城 R2	クログワイ	発生前～3cm	移植3日後 (稲2.5葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも葉鞘褐変がみられたが、軽微で回復した。
				移植7日後 (稲3.4葉期)				
				移植9日後 (稲3.7葉期)				

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
移植 水稲	茨城 R2	ヒビエ	発生始～3.8 葉期	移植 3 日後 (稲 2.4 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも葉鞘褐変、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカワ	発生前～3 葉期					
		ホタルイ	発生前～3.3 葉期					
		ヒルムシロ	発生前～発生期					
		コウキヤカラ	発生始～35cm					
移植 水稲	兵庫 R2	ヒビエ	発生前～3.7 葉期	移植 3 日後 (稲 3.4 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		オモダカ	発生前～3 葉期	移植 14 日後 (稲 5.0 葉期)				
				移植 16 日後 (稲 5.6 葉期)				
移植 水稲	奈良 R2	ヒビエ	発生始～3.5 葉期	移植 3 日後 (稲 3.3 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		オモダカ	発生前～線形葉 2 葉期	移植 12 日後 (稲 4.3 葉期)				
				ホタルイ				
移植 水稲	島根 R2	ヒビエ	1.2 葉期～3.5 葉期	移植 3 日後 (稲 2.4 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ホタルイ	発生始～3.2 葉期	移植 11 日後 (稲 4.1 葉期)				
		クログワイ	発生前	移植 14 日後 (稲 4.6 葉期)				
		セリ	発生前～再生期					
移植 水稲	熊本 R2	ヒビエ	1 葉期	移植 5 日後 (稲 3.3 葉期)	500	水口 処理	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
		ホタルイ	発生前					
		ミスガヤツリ	1 cm					
		ウリカワ	発生始					
		セリ	再生始					
移植 水稲	鹿児島 R2	コウキヤカラ	発生前～22 cm	移植 3 日後 (稲 2.0 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	移植 3 日後(稲 2.0 葉期)及び移植 22 日後(稲 4.0 葉期)の処理で分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
				移植 22 日後 (稲 4.0 葉期)				
				移植 27 日後 (稲 4.2 葉期)				
直播 水稲	福島 R2	ヒビエ	1.6 葉期～3.5 葉期	は種 49 日後 (稲 2.9 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期も草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ホタルイ	鞘～3.5 葉期	は種 57 日後 (稲 4.6 葉期)				
				は種 60 日後 (稲 5.3 葉期)				

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果		
		対象雑草		使用時期	使用量 (ml/10a)	使用方法	薬効	薬害
		名称	生育ステージ					
直播水稻	千葉 R2	ノビエ	1.5 葉期～3.5 葉期	は種 12 日後 (稲 1.0 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも細葉化、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	1 葉期～3.0 葉期					
		ミスガヤツリ	5 cm～17 cm	は種 17 日後 (稲 2.0 葉期)				
		ホタルイ	1.5 葉期～3.5 葉期					
直播水稻	広島 R2	ノビエ	2.5 葉期～3.5 葉期	は種 11 日後 (稲 1 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	は種 11 日後(稲 1 葉期)で分げつ抑制が、は種 13 日後(稲 1.6 葉期)では生育抑制がみられたが軽微で回復した。
		ウリカ	2 葉期					
		ミスガヤツリ	6 cm～12 cm	は種 15 日後 (稲 2 葉期)				
		ヒルムシロ	発生始～発生期					
		ホタルイ	1 葉期～2 葉期					
直播水稻	山口 R2	ノビエ	2.8 葉期～3.5 葉期	は種 12 日後 (稲 1.0 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	いずれの処理時期でも葉身褐点、草丈・分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	発生始～2 葉期					
		ミスガヤツリ	10 cm～15 cm	は種 15 日後 (稲 1.6 葉期)				
		ホタルイ	2.3 葉期～3 葉期					
		セリ	再生期					
		クログライ	13 cm～15 cm					
		ヒルムシロ	発生始～発生期					
直播水稻	佐賀 R2	ノビエ	1.5 葉期～3.5 葉期	は種 7 日後 (稲 1 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	は種 11 日後(稲 3.5 葉期)までの処理で草丈・分げつ抑制、流れ葉がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	2.5 葉期～5 葉期					
		ミスガヤツリ	発生始～15 cm	は種 11 日後 (稲 3.5 葉期)				
		ホタルイ	発生始～3.5 葉期					
		セリ	発生始～増殖期					
		ヒルムシロ	発生始～発生盛期					
直播水稻	岡山 R2	ノビエ	1 葉期～3.5 葉期	は種 49 日後 (稲 7 葉期)	500	湛水 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	は種 49 日後(稲 7 葉期)、は種 59 日後(稲 8.3 葉期)の処理時期で分げつ抑制がみられたが、軽微で回復した。
		ウリカ	発生始～5 葉期					
		ミスガヤツリ	3 cm～19 cm	は種 58 日後 (稲 8.3 葉期)				
		ホタルイ	1 葉期～4 葉期					
		ヒルムシロ	発生始～発生盛期					

③ 薬害

表 7 に示した薬効・薬害試験において、移植水稻及び直播水稻に対して、実用上問題となる薬害は認められなかった。

以上の結果から、申請作物に対する薬害については問題ないと判断した。

2. 対象作物以外の作物（後作物）への薬害

後作物としての栽培が想定されるこまつな、だいこん等を用いた薬害試験の結果、後作物を栽培する時点で土壤中に残留する濃度（定量限界：5 ppb 未満）では、実用上問題となる薬害は認められなかった。

以上の結果から、後作物に対する薬害については問題ないと判断した。

表8：ジメスルファゼットの後作物への薬害試験結果概要

作物名	試験条件			結果
	処理濃度 (ppb)	処理時期	処理方法	
こまつな	3~3000	は種時	土壌混和	10 ppb まで薬害は認められなかった。
だいこん				3 ppb で薬害は認められなかった。10 ppb では実用上問題となる薬害は認められなかった。
かぶ				10 ppb まで薬害は認められなかった。
ねぎ				
たまねぎ				
小麦				
レタス				30 ppb まで薬害は認められなかった。
キャベツ				
にんじん				
てんさい				
ほうれんそう				3 ppb で薬害は認められなかった。10 ppb では実用上問題となる薬害は認められなかった。
とうもろこし				300 ppb まで薬害は認められなかった。
わた				30 ppb まで薬害は認められなかった。
だいず				300 ppb まで薬害は認められなかった。
トマト				100 ppb まで薬害は認められなかった。
なす				1000 ppb まで薬害は認められなかった。
きゅうり	10 ppb まで薬害は認められなかった。			